
第12期
事業報告書

第12期:2022年5月1日 ~ 2023年4月30日



2023年 6月 30日

特定非営利活動法人Switch

目次

	ページ
1. はじめに	3
2. 認定 NPO 法人 Switch の事業概要	4
事業の実施に関する事項(定款記載項目番号に沿って該当事業を記載)	
(1)障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)に関する事業	
① 自立訓練(生活訓練) 障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」	
② 就労移行支援事業 障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」	5
③ 就労継続支援事業 就労定着支援事業 就労定着支援スイッチ	6
(2)障害者就労定着支援事業(ジョブコーチ支援、フォローアップ支援)	7
ジョブコーチ支援事業	
フォローアップ支援	
(3)就学・就労支援事業	8
・ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE	
・ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE	9
(5)研究事業(障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業)	10
(6)研修事業(マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成等)	11
(7)インターンシップ事業	
(12)その他、第 3 条の目的を達成するために必要な事業	12
・みやぎ若者応援プラットフォーム事業	
・子ども・若者の生きる力を支えるメンタルヘルスリテラシー教育普及事業	15
・就労・就学に課題を抱える若者のための出張型ユースサポートカレッジ事業	17
・宮城県若者こころの支援モデル事業	18
・みやぎ高校居場所ネットワーク事業	20
・中卒進路未定者・通信制高校転学者の再出発支援事業の強化事業	21
・東北工業大学 キャリア講座委託	23
・宮城県障害者能力開発校 (セルフケアマネジメント科)委託事業	24
・仙台市健康福祉局 (仙台市災害こころネットモデル事業) 委託事業	
・ダンス交流会『NHK 歳末たすけあい』事業	25
3. メディア掲載	26

■はじめに

2022年度の世界情勢では、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)による社会変化だけでなく、ウクライナ紛争があったことで、私たちに「先の見えない不安」がより強くなった年であったと思います。このウクライナ紛争によって、戦争を身近なものとして初めて感じ、世界の中での日本について、改めて考えるきっかけになった方も多いと思います。一方、COVID-19による世界的パンデミックは3年目で終焉を迎えることとなり、日本でも地域差はありながらも、アフターコロナを考えるようになってきました。

弊法人では、創業者からの代表交代という一つの節目を迎え、新体制の確立を目指した1年となりました。直接ご挨拶できない皆様も多い中で、温かいお言葉を頂戴し、ありがとうございました。新体制になったことで、より社会的な信頼を目に見える形にすることに重点をおき、2023年2月にグッドガバナンスを取得しました。現場事業と共に、組織体制のガバナンス強化も引き続き力を入れ、透明性の高い法人運営を心がけていきたいと考えています。

私たちの受益者である、「若者」や若者を取り巻く「生活」に目を向けてみると、コミュニケーション変化と、メンタルヘルスへの影響が大きなアフターコロナの課題となっています。

COVID-19対策であった長期間のマスク生活とオンライン対応は、私たちのコミュニケーションの感覚に戸惑いを与えることになりました。コミュニケーションは非言語の影響が大きい分、表情が分かりづらく、時間の余白がないことは、不安なコミュニケーションを生みやすくします。その不安は、価値観を狭め、誤認識する要因の一つとなり、ますます互いのコミュニケーションを鈍らせ、メンタルヘルス不調につながることもあります。

だからこそ、若者たちは安心する場を求め、どの年度よりも Switch という居場所に繋がってきた結果となりました。私たちは、安心するコミュニケーションを各々が再獲得するために、丁寧に時間を提供する必要を感じます。

多様性の尊重が重要なテーマである中、私たちは若者に様々な居場所を提供し、繋がりを支え、一歩踏み出していける場をつくり続けていきます。そして、若者を取り巻く職場、学校、家庭、地域などの環境面にも、直接働きかけることに力を入れていきます。

ウェルビーイングという「各々にとってより良い状態」の実現と、共生する地域作りを目指し、日々邁進してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2023年6月

認定NPO法人 Switch

代表理事 今野純太郎

代表理事 小野彩香

(1)障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)に関する事業

①自立訓練(生活訓練)

「スイッチ・イシノマキ」

◆成果と今後の課題

2022年度は就職者が2名(障害開示、非開示各1名)でインテーク数は計13名だった。年度半ば新規相談来所がほとんどなかったため、冬に事業所説明会や年明けにダンスイベント(NHK 歳末助け合い助成事業を活用)を開催することで、地域の関係機関の方々に事業所について周知をすることができた。季節柄の影響もあるかと思うが、そのおかげで新規問い合わせが年明けに急増した。石巻は本人から直接の問い合わせに比べ関係機関や病院からの問い合わせが多く占めているため、地域に根差した事業所として長い目で信頼を得られるよう活動をしていく必要がある。また課題として地域柄、送迎や駐車場があると良いという声を複数いただいている。

◆実績・活動内容

2022年 新規相談件数(14件)

10代	20代	30代	40代	50代	60代
2	5	4	2	1	0

男女比

男性	女性
3	11

紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	石巻 NOTE	教育機関	HPメディア	知人・友人・家族	その他
1	7	2	0	1	2	0	0	0	1

※その他の内訳 企業健康相談室より紹介

2022年 在籍者数

自立訓練(11名)

10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	5	2	1	2	0

男女別

男性	女性
5	6

卒業生内訳(退所理由)

就継B	就継A	移行支援	就職	体調不良	期間満了	その他
2	0	0	2	1	0	1

活動内容

コミュニケーション訓練・体調管理・ストレス対処等の講座やアートプログラム等の余暇系プログラムを実施。その他、農業実習や漁業ボランティア等所外での実習も実施している。利用者の状況、希望等を伺い、一人ひとりに合わせた活動を行っており、個別活動としてはPC訓練や障害理解のための学習、創作活動等がある。就労を希望する方へは企業見学や実習、就職活動の支援も行っている。

(執筆担当:長岡 千裕)

②就労移行支援事業

「スイッチ・センダイ」

◆成果と今後の課題

2022度は、新規登録が29名、就職者が23名であった。

2022年度も、昨年同様のインテーク数と登録者数であり、サービス管理責任者が新任になったものの利用者数、就職者数共に減少することなく新体制へ移行できた。例年に比べて20代の方のボリュームが大きいものの、10代から60代まで幅広い年齢層の利用者が在籍する中、ICTの活用等も定着してきたように感じる。

活動内容はコロナの落ち着きと共に、より外部への働きかけが増えており、実習や見学の機会が増となっているが、同時に社会的にもオンライン面談等の需要の高まりは継続しているため、支援におけるICT活用の継続も必要になっている。

新規相談者の内訳では病院や役所以外からの紹介が多くなっているが、その中でもパンフレットやWEB等の広報資料を見て来所した方が15名以上と多くなっており、広報活動が一定の効果を上げていると考えられる。

課題としては、昨年同様にインテーク数に対して新規利用に至る方が4割弱となっており、他機関と同時並行で検討される方が増えている事が伺える。そのため、より多くの方に選択していただくためにも、自事業所の特色をブラッシュアップしていくと同時に、新規相談者数を増やしていく為の工夫が必要になる

◆実績

新規相談受理数	新規登録者数	年間在籍者実数	就職者数	6ヶ月定着者数
82	29	60	23	16

在籍者年齢層

10代	20代	30代	40代	50代	60代
4	33	13	8	1	1

紹介元内訳

病院	役所	相談支援事業所	ハローワーク	職業センター	就労支援事業所等	職場・学校	家族
31	7	2	1	1	1	1	5
友人・知人	Web	パンフレット	アーチル	再利用	仙台NOTE	その他	
3	6	8	1	1	6	8	

* その他 内訳に含まれない相談支援機関等

◆活動内容

個別担当制の伴走型就労支援(IPS)を実践している。

個別担当制の中、認知行動療法、コミュニケーション、セルフケア、就活講座、PC講座、の5つをプログラムの柱としながら、見学や実習体験、他機関との連携等利用者一人ひとりに合わせた個別的就労支援を実施。



(執筆担当 田口雄太)

③就労継続支援事業

就労定着支援スイッチ

◆成果と今後の課題

2022年度は5名が新規利用開始となった。昨年度同様、就職者も20名を超え、引き続き定着支援のニーズは高まっている。

相談内容は職場に係る相談が4割、体調や生活にかかわる相談が6割となっており、安心して業務に当たっていく為にも体調や生活に係る相談のニーズが高いことがわかる。職員にも、より視野の広い相談スキルが求められることから、一層の研鑽が必要になる。

就労定着支援の性質上、3年以上継続しない方が増えるとサービスに対する評価が下がる構造となっているが、雇用期間に定めのある方や、体調に不安を抱える方も積極的に挑戦をしている事から、当事業所としては3年以上の就労継続の見込みに関わらず、必要とする方への支援の提供を行っていききたい。

◆実績 2022年度 就労定着支援事業 利用状況

在籍者数	うち、期間満了修了者	うち、離職者数
22	6	0

(執筆担当 田口雄太)

(2)障害者就労定着支援事業(ジョブコーチ支援、フォローアップ支援)

ジョブコーチ支援事業

■訪問型職場適応援助者によるジョブコーチ事業

◆成果と今後の課題

ジョブコーチ支援の利用は、一定数で推移している。利用者の著しい増加はないが、企業からの支援ニーズ(特に精神の方の採用経験がない企業)は引き続きあると考えられる。今後の課題として、稼働できる人員が限られているため、支援に対してどのように動いていくか職員間での共通認識をもつ必要がある。

◆実績・活動内容

高齢・障害・求職者雇用支援機構 訪問型職場適応援助者助成金

2022 年度実績

	実対象者数	支援回数	離職者	稼働配置 JC
2022 年度	3 名	18 回	1 名	2 名

・実対象者 3 名のうち、2022 年度新規開始者は 1 名であった。

・法人単独支援にて実施。

(執筆担当 三上綾佳)

フォローアップ支援事業

■スイッチ・センダイ OB 会

◆成果と今後の課題

コロナ禍により、他者との交流の機会が著しく制限されているスイッチ・センダイの在職 OB より、以前行っていた OB 会開催の声が上がっていた。法人の掲げる Well-being の視点から、コロナ対策をしたうえでの OB 会を再開した。

年 4 回実施した中で、毎回 10 名超が参加した。会の名前決めから始まり、会の内容もワークショップや参加者へのアンケートを行いながら、今まで以上に当事者性を意識した会として実施していく事ができた。

今後、より当事者性を高めながら、ある程度参加者で自走できるような会を目指していく事で、より参加者が能動的に自身の Well-being を意識できるような運営をしていけたらと考えている。

◆実績・活動内容

3 か月に1度、年 4 回実施

2022/6/24	2022/9/26	2022/12/16	2023/2/24
13 名参加	11 名参加	10 名参加	13 名参加
会の名前決め&内容について WS 近況共有等 GW	近況共有等 GW	レジン WS 近況共有等 GW	近況共有等 GW



(執筆担当 田口雄太)

(3) 就学・就労支援事業

■ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

◆成果と今後の課題

今年度も、進路決定支援のための、個別支援、各種講座、職場実習、学習支援などを通じ、一定数の進路決定者と就職者を出すことが出来た。特に今年度は各種助成金事業により職場実習や多様な講座、学習支援(教材や自習環境の提供)や家族向け研修会など、多様なプログラムを提供することができ、利用者が一歩踏み出すための経験を重ねることができた。

社会資源が少ない石巻圏域では、利用を希望する若者の状態像は幅広く、原因ははっきりしないが就労や就学になかなか至れないケースや、そもそも外出することが困難なケース、障害福祉サービスを利用できる状況になるまでに NOTE を活用するケースも多くなっており、利用期間の長期化が見られている。他、高校や大学に在学している方で、卒業後の福祉サービスの利用を見据えて NOTE を紹介・利用するケースも増えてきている。福祉資源をスムーズに利用するためのサポートも念頭に置きつつかつ、本人の希望や思いに寄り添うなど、さまざまな「移行」をサポートする機能としての役割を実感している。引き続き、同フロアにあるスイッチ・イシノマキと連携を密に支援を行っていききたい。他、紹介はされてくるものの、メンタル不調などにより外出に困難を抱える対象者もいるため、アウトリーチ支援を活用しながら対象者の状況に応じて柔軟に支援展開を行っていききたい。

課題としては、就労したい思いはあるものの経験不足や自信のなさから動き出せない方のためのスモールステップの場所としての居場所機能である。就職活動を行うための基礎学力を補う学習支援的プログラムも必要であると感じる。また職場実習先の開拓も課題である。進路決定支援と両輪で取り組めるよう検討していききたい。

◆実績

登録者数	新規相談者数	延べ相談者数
41人	30人	1519件

職場見学・実習参加者	講座参加者	学習支援利用者	アウトリーチ件数
延べ 86名	延べ 191名	延べ 86名	延べ 50件

卒業者数	帰すう(進路決定先)
26名	就労 13人、福祉サービス利用 7人、進学・復学 4人、その他 2人

地域交流イベント:実施回数	参加者数
2回(若者向け1回、家族向け1回)	計 19名

※関連助成事業等: 2022年みやぎ高校居場所ネットワーク事業、2022年石巻市地域づくり基金助成金、2022年みやぎ若者応援プラットフォーム事業(詳細は後ページにて)

(執筆担当 長岡千裕)

ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE

◆成果と今後の課題

2022 年度も引き続き、働くこと・学ぶことに不安や困難を抱える 10 代(高校生年代)～20 代の若者に対し、心のケアをベースとした就労準備支援(講座プログラム・インターンシップ)、修学・復学支援、居場所支援を実施。利用者が社会へ向けた一歩を踏み出すために必要なサポートを提供することができた。

利用者層としては、例年に比べると病院・学校からの紹介が増加傾向にあり、すぐに就労を目指したいというよりは、まず生活リズムを安定させたい、休学中・卒業後の日中活動先として利用したいといった希望で利用開始される方が多かった。あわせてフリースペース利用の需要が高まっており、このことから若者が就労サポートだけでなく、安心できる居場所としての機能を仙台 NOTE に求めていることが窺えた。また、2022 年度はこれまでの登録料制から、月額料制へと利用料金体系を変更した。利用者獲得と安定した収益との両立に向けてはまだ課題も多いが、持続可能な事業運営基盤に向けた第一歩となった。

このほか、各種助成事業による夕方夜間相談窓口、サテライト Café、インターンシッププログラム等の幅広い関連事業・プログラムを展開することで、月額登録者以外に対しても、一人ひとりに合った使い方・サポートを提案・提供していくことができた。特に夕方夜間相談窓口やサテライト Café においては、従来の場所・時間の枠を超えた相談窓口・居場所を設けることで、より多くの若者が気軽に相談に立ち寄る機会を創出できた。これらのプログラムから日中帯の仙台 NOTE へ接続、就労へつながったケースもあり、一定の成果があった。

◆実績

ユースサポートカレッジ事業(仙台 NOTE 第 12 期)

■活動実績

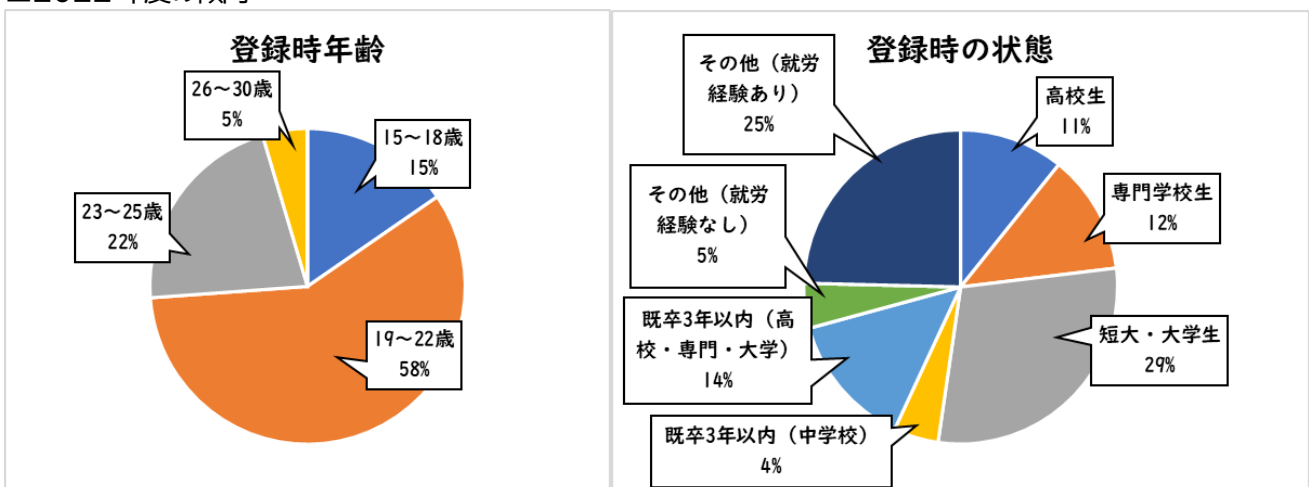
登録利用数	新規相談者件数	延べ利用者数	延べ相談件数	インターンシップ件数
65 名	53 件	1,352 名 (来所)	342 件	35 件

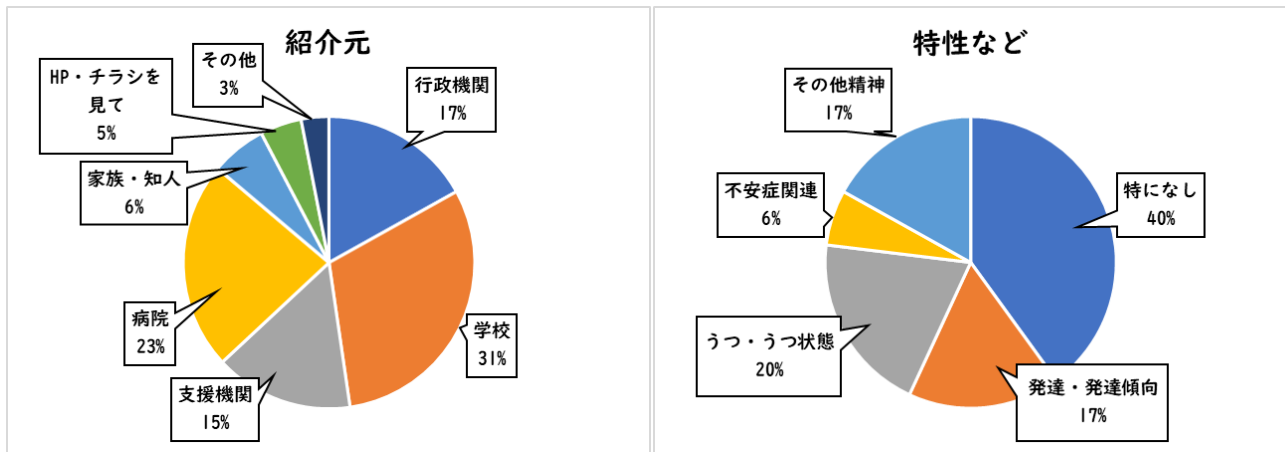
・延べ相談件数の内訳 : 対面相談:248 件 電話相談:49 件 メール相談:30 件 オンライン(Zoom)相談:15 件

■実績【帰すう(進路決定者)】

就職決定者数	修学・復学数	福祉サービス利用移行者数
19 名	6 名 (修学 4 名・復学 2 名)	5 名

■2022 年度の傾向





※関連助成事業等: 2022 年日本郵便年賀寄付金助成事業、2022 年日本財団助成事業、2022 年宮城県若者こころの支援モデル事業、みやぎ若者応援プラットフォーム事業(詳細は後ページにて)

(執筆担当 山田ゆかり)

(5) 研究事業(障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業)

【委員委嘱等】

- ・仙台市障害者施策推進協議会委員 委嘱 (小野)
- ・仙台市自殺対策連絡協議会委員 委嘱 (小野・小関)
- ・宮城県いじめ防止対策調査委員会委員 委嘱 (小野)
- ・宮城県青少年問題協議会委員 委嘱 (小関)
- ・宮城大学「Downstream から学ぶ DX」リスキングプログラム事業実施委員 委嘱(今野)
- ・日本精神保健・予防学会 評議員 (高橋由佳)
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 研修委員(小野)

【加盟団体】

会員団体一覧

新公益連盟、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本NPO学会、日本精神保健・予防学会、NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、宮城県中小企業家同友会、公益社団法人仙台中法人会、せんだい・みやぎNPOセンター、仙台市社会福祉協議会、日本IPSアソシエーション幹事

【論文・発表 等】

- ・4 月 宮城大学 事業構想学群 地域創生学類 地域実践演習 講師(今野)
- ・6 月 日本 NPO 学会大会「休眠預金等の投融資への活用に関する考察」発表(今野)
- ・8 月 日本職業リハビリテーション学会 第49回宮城大会 研究・実践発表(就労支援の様々な側面Ⅰ)「自団体へ日本版個別型援助付きフィデリティ調査した際の所感と課題」(◎坂下、小野、田口)
- ・9 月 「休眠預金等の投融資への活用に関する考察：社会的投資ホールセール銀行の役割と社会的インパクト評価」 關西大學商學論集第 67 卷第 2 号 共同執筆 (馬場 英朗、青木 孝弘、今野 純太郎)

(6) 研修事業(マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成)

- ・6月 第一回仙台市女性・若者活躍推進会議 指定発表者(小関)
- ・8月 日本職業リハビリテーション学会 第49回宮城大会 ワークショップ「安定した職業生活を継続するための支援～地域生活支援の視点から～」進行(田口)
- ・8月 名取市学力向上推進事業 研修会「発達障害のある児童生徒への支援のあり方について」講師(田口)
- ・9月 公益財団法人仙台市健康福祉事業団 職員研修「働く人のストレスマネジメントとコミュニケーション」講師(小野)
- ・9月 特定非営利活動法人シャロームの会 スタッフ研修会 講師(長岡)
- ・9月 仙台市 ひきこもり支援に係る座談会 登壇(小関)
- ・10月 人事院 第75回東北地区中堅係員研修講師「メンタルヘルス～自分自身と他人を思いやる」(高橋由佳)
- ・10月 東北地区私立大学就職問題協議会「研究会」発達障害・グレーゾーン学生の就職支援講師(小関)
- ・11月 亘理町ゲートキーパー養成講座 講師(小関・加藤)
- ・11月 特定非営利活動法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 ピアサポーター研修会講師(小野)
- ・11月 仙台市精神保健福祉総合センターひきこもり家族教室「若者の自立に向けた社会資源」講話(小関)
- ・12月 仙台市精神保健福祉総合センター 自殺対策専門職研修会 講師(小関)
- ・1月 社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会 虐待防止委員会メンタルヘルス研修 講師(小野)
- ・1月 一般社団法人日本カーシェアリング協会 職員研修講師(小野)
- ・1月 NPO 法人アスイク 相談支援スタッフ向け事例検討会 講師(小野)
- ・2月 社会福祉法人白石陽光園 県南障害者就業・生活支援センター「コノコノ」仙南地域就労移行支援事業所連絡会議「対人援助のためのストレスマネジメント」講師(小野)
- ・2月 特定非営利活動法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 仙台市障害者社会参加促進事業運動支援事業(ダンスプログラム)講師(高橋貴江)
- ・2月 にじいろ CANVAS シンポジウム「自分らしくある/自分らしく働くを支える」パネリスト登壇(今野)
- ・3月 石巻市立桜坂高等学校 3学年進路ガイダンス 講師(小関)
- ・3月 名取市閑上公民館 共生社会を考える講座第3弾 テーマ「居場所」講師(小関)
- ・3月 パーソナルサポートセンター 暮らし支える総合相談事業ネットワーク会議 講話(今野)

(7) インターンシップ事業

- ・尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻 臨床心理学コース公認心理師心理実践実習
- ・精神保健福祉援助実習(日本福祉大学) 実習指導講師 長岡
- ・精神保健ソーシャルワーク体験実習(仙台白百合女子大学) 実習担当 長岡

(12) その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

■ みやぎ若者応援プラットフォーム事業

事業名	「みやぎ若者応援プラットフォーム」事業
助成委託団体・助成金名	休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応支援助成 「若者の『コロナ失職』包括支援プログラム」 認定特定非営利活動法人育て上げネット READYFOR 株式会社
助成・委託期間	2022年5月～2023年2月
【事業概要】 今回の事業は、東北経済の中心地である広域仙台経済圏において、新型コロナウイルスによる若者の雇用機会の深刻な減少に直面する「コロナ禍で失職した若者」を対象に、学び、働くための様々なスキル習得の機会を提供することで、コロナ禍の就労課題を彼らのキャリアチェンジの起点とし、就労へ踏み出すことを目標とした。 1:「つながる」 対面・SNS・オンラインゲームを活用した若者との接点の創出や、アウトリーチ(個別訪問支援)で若者と社会の接点を創出した。 2:「まなぶ」 ITスキル習得の場を提供:日本マイクロソフト提供の「S+OLC」などのツールを活用し、若者に対して基本的なITスキルを習得する場と機会を提供する。Teamsなどのツールを活用し、個別の学習進捗サポートにも取り組んだ。 3:「動く」 集合型実習と、職場体験実践の場を用意し、非日常空間に身を置くことで、これまでのキャリアへの向き合い方の転換を目指した。	

【事業内容】

1:「つながる」対面・SNS・オンラインゲームを活用した若者との接点の創出や、アウトリーチ(個別訪問支援)で若者と社会の接点を創出する

・コロナ失職相談の窓口

電話、メールなどを活用したコロナ失職の相談窓口の設置。

・オンラインゲーム、eスポーツを活用したアウトリーチ。一般社団法人仙台eスポーツ協会と連携し、実施した。

① :Discordの開設:オンラインゲーム上での伴走の場を設置。

② :オンラインゲームを活用した伴走ツールの開発:伴走の仕組み、を構築する。

③ : オンライン支援者の育成:チューターを育成し、若者が課題を抱えた若者をサポートするためのスキルを身につける。カウンセリングの研修や、オンラインゲームについての知識を習得する。

④ :オンライン支援者の運用:大学生、専門学校生などのチューターを稼働。

⑤ :リアル伴走の場への参加:eスポーツのリアルの場への誘導も促し、外に出るきっかけも提供する。

⑥ :オンライン伴走マニュアルの作成:伴走のためのマニュアルも作成し、全国の若者支援団体へのノウハウ移管も行う。

・アウトリーチによる個別伴走

石巻市(沿岸部)など、通所が難しい層に対してのアウトリーチ(個別訪問支援)の展開。

2:「まなぶ」スキルアップ講座の展開

・ITスキル習得の場を提供:日本マイクロソフト提供の「S+OLC」などのツールを活用し、若者に対して基本的なITスキルを習得する場と機会を提供する。Zoomなどのツールを活用し、個別の学習進捗サポートにも取り組む。

・就活、セルフケア、社会人基礎力向上のための講座の展開。

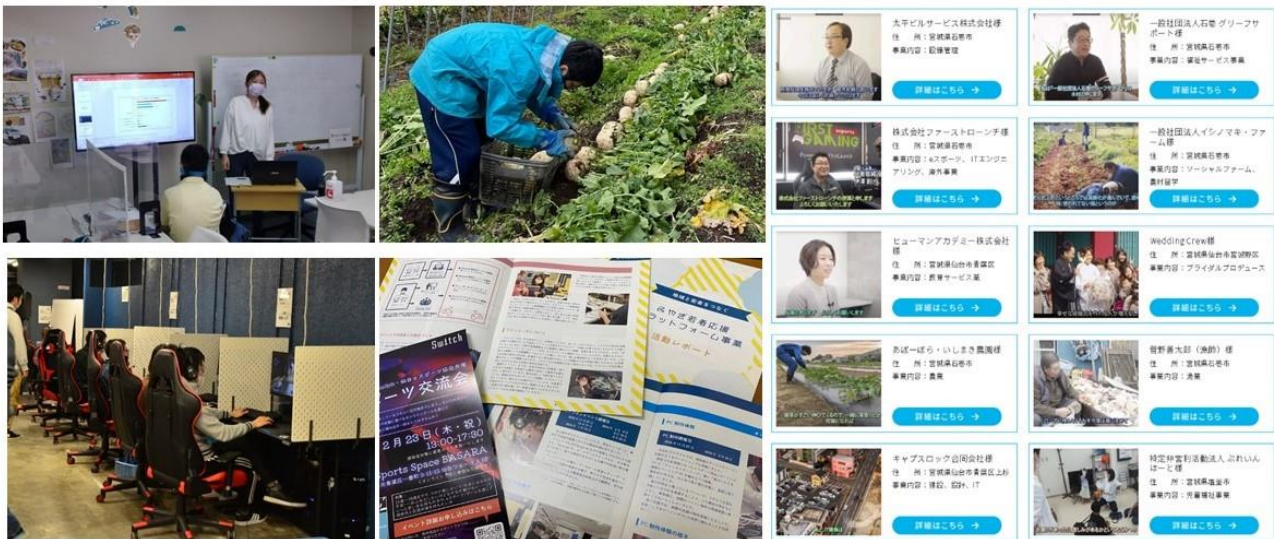
・学び直し支援:オンライン学習支援ツールSTUDYSUPLIと伴走者の活用により、学歴の壁などで就労課題を抱える若者に対して学び直しの支援をする。

3:「うごく」

- ① 集合型実習:日常を離れた空間に場所を移し、石巻市の被災地の農業による街づくりに取り組んでいる団体(一般社団法人イシノマキ・ファーム)と連携し、1週間程度の就労支援プログラムを展開。実践を通してITや社会人基礎力の応用力をつける。
- ② 職場体験実践:宮城県内の10社以上の企業と連携し、課題を抱えた若者の雇用に理解のある企業の体験実習による接続を目指す。実習をした企業のプロモーション映像の作成にも取り組む。(映像協力:合同会社 tryAngle)

【事業の成果】

■相談件数	1734件
■オンライン伴走支援利用者	6名・稼働合計114回
■伴走支援チューター育成	8名・稼働合計214回
■アウトリーチ支援	50件
■IT基礎講座	42名
■就活講座	163名
■セルフケア関連講座	245名
■学び直し支援利用	82名
■実践集合型研修	15名
■職場体験実習	88名
■プロモーション映像作成	10件



【考察と課題を取り巻く変化】

今回の事業はコロナ禍で孤立する若者とどのように「つながり」その若者たちが何を「まなび」そしてどのように「うごく」のか、という、コロナ禍の若者の就労に関する「動き」をデザインする事業として企画した。

「つながる」部分について、従来の対面での面談や、電話などによる支援にとどまらず、インターネット上で孤立する若者像をペルソナとして設定し、その若者たちと大学生チューターとのゲームによるマッチング、というチャレンジだった。チューター希望者の育成と受益者との接点のタイミングが合わず、前半は受益者が伸び悩む場面もあったが、後半には受益者がチューターとつながる中で徐々に社会との接点を回復していく過程を目の当たりにすることが出来たことは大きな成果だった。

一方で大学生チューターの側にも様々な悩みがあり、一緒にゲームをする中で相互に影響を与え合う、ピアカウンセリングのような効果もあったと考えている。

中長期的には、受益者とチューターの関係が近づいてきたときに、チューターがどのような姿勢で受益者に関わりあうべきなのか、定期的なスーパービジョンが必要だと考えるが、こちらは今後の課題となる。

「まなぶ」部分については、コロナ禍で様々な情報や機会との接点が少なくなった若者にとって、今回の「まなぶ」機会の提供は、有効だったと考えている。様々な分野、角度から学びのコンテンツを用意したが、最終的に「セルフケア」関連の講座のニーズが高く、コロナ禍で不安定になる若者像が浮き彫りとなった。一方で学習支援など、就労に直接関係しない講座については、ニーズは低かった。

「うごく」のなかの「集合型研修」では、1週間の非日常体験に身を置くというコンセプトで、当初は敷居の高さも感じられたが、徐々に参加者が増え、受益者の満足度も非常に高い結果となった。コロナ禍で「日常」に閉じ込められていた若者が、非日常の中で生き活きと活動をする姿を見ることが出来たことが大きな成果だと捉えている。中期宿泊型の実習という、受益者にとってチャレンジングな機会を提供したが、最初は不安を抱えながら参加した受益者たちも、事業終了時点では自信を持つことができた。そして、プログラム内でのECサイト構築や、農業生産者のインタビューなどを行う中で、職業意識の醸成や、地域産業の在り方、生産者の思い、そして「働く理由」の追体験など、様々な要素に触れる機会となり、社会的なロールモデルと出会うことが難しい若者にとって、意義のある経験だったと捉えている。

並行して地域で若者の職業体験に意欲的な企業10社を開拓し、その企業の取材、そして動画の収録、編集を行った。この取り組みでは、企業に正面から「職場実習をさせてほしい」というよりも、「地域の若者の雇用に前向きな企業の取材をしている」という話をする事で、地域に課題を抱えた若者が存在することを企業が認知するきっかけを作ることが出来たと考えている。また、動画を見た若者が、地域で受け入れ意欲のある企業がたくさんあることを知り、就労の壁が以前より低くなったと感じてもらえることが出来たと考えている。そしてこの動画を撮影した若者たちも、過去に若者支援事業で支援を受けたのちに、動画編集の会社を立ち上げた若者であるということも大きなポイントだと考えている。地域の若者が成功し、その若者たちが次の世代の若者を育てるという連鎖をイメージした事業を、今後もデザインしていきたい。

【今後の若者施策の方向性】

現在、圏域の自治体では「子ども・若者支援地域協議会」の設置検討や、子ども家庭庁関連予算の具体化、そして先日の参議院本会議では「孤独・孤立対策推進法」の可決など、若者施策を取り巻く環境の大きな変化が起こっていることから、今回の取り組みが、法人事業や自治体事業の柱に乗り、さらに多くの若者を支える起点になることを強く期待している。

(執筆担当 今野純太郎)

■ 子ども・若者の生きる力を支えるメンタルヘルスリテラシー教育普及事業

事業名	子ども・若者の生きる力を支えるメンタルヘルスリテラシー普及
助成委託団体・助成金名	日本財団助成事業
助成・委託期間	2022年4月～2023年3月
事業概要	<p>①メンタルヘルスリテラシー普及のためのツール開発②メンタルヘルスリテラシーを学ぶための出張講座の開催③夕方・夜間相談窓口の設置 の3つの事業を実施。</p> <p>子ども・若者の自殺予防としてカードゲームを通してメンタルヘルスリテラシー教育を普及させることで、子ども・若者が自分を大切にするセルフケアのスキルや相談の仕方などのコミュニケーションの方法を知ることができる。また、友人や大人と学びを共有することでつながりができ、子ども・若者が孤立しない状態を作ることが目的とする。併せて若者の自殺が多い時間帯に夕方・夜間相談の窓口を設置し、若者の孤立を防止する。</p>

【実績及び成果・課題】

① メンタルヘルスリテラシー普及のためのツール開発

対戦形式で遊びながら、自分なりのストレス対処法やセルフケアについて考え・気づき・学ぶことのできる新感覚のカードゲーム「ココロノリーツナガール」を開発・制作。カードの内容は実際の高中生世代の若者の声が反映されており、高校生が親しみを持って利用できるツールを開発することができた。

【連携先】

- ・株式会社ウサギ(代表取締役高橋晋平様)にゲーム企画・ルール開発を委託
- ・特定非営利活動法人かぎかつこ PROJECT(代表理事 神澤祐輔様)にデザイン全般業務を委託
- ・精神保健に関する内容の信頼性を高めるため、国府台病院児童精神科医 水本有紀様、尚絅学院大学心理学群准教授の内田知宏様に監修を依頼し有識者会議を3回設定

② メンタルヘルスリテラシーを学ぶための出張講座の開催

公立高校3校にて4回出張授業を実施。

①2023年2月16日(木)16:00～17:10 宮城県貞山高等学校 11名(学生8名・教員3名)

②2023年2月27日(月)15:45～16:45 石巻市立桜坂高等学校 8名(学生6名・教員2名)

③2023年3月17日(金)14:00～15:00 石巻市立桜坂高等学校 33名(学生33名・教員2名)

④2023年3月22日(水)9:55～10:40 宮城県石巻北高等学校飯野川校 10名(学生10名・教員2名)

*参加者のこころの安心感・満足度：

参加者アンケートにて「ストレス対処やセルフケアにて新たな気づきがあった」80%

<アンケートより一部感想>

- ・とても楽しかった。色々な人の意見が聞けて良かった。(学生)
- ・ストレスも色々なものがあり、それをセルフケアやアサーションで解決するのが楽しかった。
- ・自分が考えている対処法以外にも面白い対処法がたくさんあるんだなど気付けた。(学生)
- ・ストレス対処法の範囲が増えて、これからやっていけるなって思った。(学生)
- ・対処法を自分の言葉で考えると難しいけど、カードの言葉から考えることで苦手意識がなくなった。(学生)
- ・将来が不安で気持ちが落ち着かない時の対処法が知れた。(学生)
- ・カードゲームを通してストレスについて理解し、解決の見通しを持つきっかけの持てるとも効果的な講座だった。講師のコーディネートやスタッフの支援も効果を高め、良い雰囲気の中で生徒が活動できた(教員)
- ・学生がストレスマネジメントについて興味を持って参加できていた。学校の教員以外の方とのかかわりも大事だと改めて感じている(教員)
- ・自分の気持ちを言葉で伝えるのは勇気のいることだが、カードを通すことで生徒が気持ちを言語化できていたのは良かった(教員)



③ 夕方・夜間相談窓口「ほっとやすらぎたいむ」の設置

2022年5月～2023年2月(月4回)、10代～20代の若者を対象に、17時～20時にてユースサポートカレッジ仙台 NOTE 内に開設。お悩み何でも相談、気軽におしゃべりタイム、等、相談とフリースペースを設けて実施。ゆったりと過ごせる安全安心な場所を提供できた。利用者も徐々に増え続け、需要の高さを実感している。

・相談件数 186 件

・利用者のこころの安心感・満足度:参加者アンケートにて「利用者満足度」89.9%、「また利用したい」95%

本事業は 2023 年度も継続が決まり、今年度課題となった学校に合わせた柔軟な授業内容の提供、又今後の拡販についても検討し広く普及するための方法を考え実施していく。

(執筆担当:小関美江)

■ 就労・就学に課題を抱える若者のための出張型ユースサポートカレッジ事業

事業名	就労・就学に課題を抱える若者のための出張型ユースサポートカレッジ事業
助成委託団体・助成金名	日本郵便年賀寄付金助成事業
助成・委託期間	2022年4月～2023年3月
事業概要	高校生・大学生・既卒3年程度の就労や就学継続に課題を抱えた若者が悩みを相談したり、プログラムを受けることで持続的な就労・就学継続に繋がる場所を、出張型で提供し、地域で若者を支える仕組みを作る。

【実績及び成果・課題】

当法人のユースサポートカレッジ事業を、出張型のサテライトにて地域のハブとなるような場所や大学の近くに展開し、より多くの学生や若者にリーチできる居場所を提供した。ゆったり過ごせるフリースペース、こころのケアをベースとした相談窓口の設置、講座を展開した。場所は地域のコミュニティプレイスや大学のサテライト会場、市民会館、アートアトリエ、お寺と連携し、満足度の高い居場所を提供することができた。課題としては、学校や地域とより連携した集客と事業の継続性である。利用者の満足度は高かったためこの実績を今後につなげていきたい。

【NOTE サテライトカレッジを年8回実施、年間延べ利用者数52名参加】

①こころのケアをベースとした相談窓口の設置

就労相談件数 年間延べ7件 就職者数1名

②講座展開【若者の就労・修学を応援するプログラム】

専門家や実践家を講師に招いて講座を開催

6/30 アロマセラピー(まちスポ仙台)4名、8/30 社会人講話(東北工大ロビー)6名、9/29 ヨガ(トークネットホール仙台)5名、10/26 パーソナルカラー(まちスポ仙台)6名、11/29 キャリアデザイン(トークネットホール仙台)5名、12/27 社会人講話(トークネットホール仙台)6名、1/31 アートプログラム(ワンダーアートスタジオ)8名、2/16(松音寺)お寺で写経プログラム10名

③フリースペースの提供 年8回開催

④事業評価 アンケート49件、独自指標にて評価

<アンケートより一部感想>

- ・とても楽しく居やすい環境で、初めてでも安心してリラックスできました。
- ・久しぶりの相談だったので緊張していたのですが、話しやすく自分でもここまで溜め込んでいたのかと思うほど気持ちの整理がつき、自分を理解していくこと、今の自分を受け止めてそこからどうしていくのかが何より大事なのだと気付きました。
- ・午後の部のみ参加しましたが、特に後半の座談会は非常に緊張しました。好きなことに対して取り組むことは大切だと思いました。好きなことがなくても何かの目的を見つけることで安心感が生まれると思いました。人間関係が苦手な世の中に対して怖さがありますが、今回の話を聞いて多少心が楽になったと考えました。

(執筆担当:小関美江)



■宮城県若者こころの支援モデル事業

事業名	宮城県若者こころの支援モデル事業
助成委託団体・助成金名	宮城県委託事業(保健福祉部精神保健推進部)
助成・委託期間	2022年4月～2023年3月(平成31年より5か年)
事業概要	若者の自死予防をはじめとするメンタルヘルス対策の推進を目的とした普及啓発事業を実施。 ①大学生ゲートキーパー養成講座の実施②若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発③若者こころの支援会議の開催を3本の柱とする。

【実績と成果・課題】

(1)大学生ゲートキーパー養成講座の実施

回	月日	対象者	議題等	参加者数
1	7月8日	宮城大学大和キャンパス看護学群2年生	ゲートキーパー養成講座	84名
2	10月4日	尚絅学院大学人間心理学科1年生	ゲートキーパー養成講座	90名
3	11月8日	東北工業大学工学部 都市マネジメント	セルフケア講座	86名
4	11月24日	東北工業大学環境応用学科1年生	セルフケア講座	57名
5	11月14日	宮城学院女子大学心理行動学科3年生	セルフケア講座	43名
6	2月8日	東北学院大学就職キャリア支援課	セルフケア講座(オンライン)	60名

今年度は4大学にて出張講座を展開。目標3回の実施を上回る6回にて実施することができた。コンテンツは若者こころの支援会議にて頂いた各大学からの課題やご意見を元に、「ゲートキーパー養成講座、その前段としての「セルフケア講座」の2本のコンテンツでの開催にて安定し実施することができた。
※基本コンテンツは初年度に尚絅学院大学の内田知宏准教授に監修を依頼、「自殺学」第一人者である和光大学の末木新教授に資料提供にてご協力を頂き作成

<アンケートより一部感想>

- ・何よりも、身の周りの人の小さな変化に気づいてあげることが大切だという事が分かった。また相手と接するときも、たくさん話を聞いてあげる、そしてその話を辛辣にならず肯定的に受け止めてあげる、ということも心に留めておきたいと思う。今回の授業で紹介先が分かったので、専門家や先生に相談などをして少しでも楽にしたいと感じた。
- ・自分が感じる不可解な気持ちがストレスからきていることに気づけたのでとても良い経験になりました。
- ・大学入学の頃、しばらく寝れなかった時期があり、「慣れたら治るだろう」と思い込み、相談せずいた。自分のストレスに気付けるよう、日頃からセルフケアを行い、心を休める時間を作りたい。
- ・今一人で体調不良に悩んでいましたが、周囲の人に相談してみようと思う勇気が出ました。

(2)若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発(講演会開催)

- ① 10月13日 13:30～15:30(オンライン) 30名参加
演題:子ども・若者の自死予防～声なき声に どう支援を届けるか～
講師:伊藤次郎様(NPO 法人 OVA 代表理事)

<アンケートより一部感想>

- ・若年者の死因の実態に驚くと共に、対策を進められている最前線の取組に感銘を受けました。検索連動広告の概要、アウトリーチの手法など、対外的なアプローチの仕方として大変参考になりました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・本当に届いて欲しい人こそ支援が届かない、援助希求ができない現状については理解をしておりましたが、支援を行う側にも多くの改善の余地があることを考えさせられました。自分たちにできることは何か、今一度考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

② 3月9日 13:00~14:30(オンライン) 50名参加

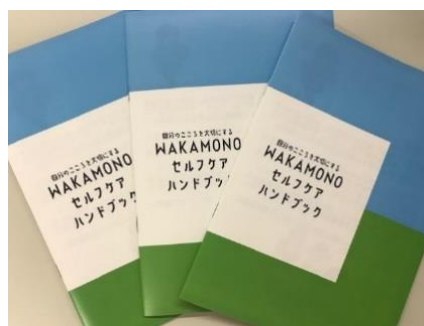
演題:子ども・若者の自死予防~自分を大切にできない若者を理解するために~

講師:福地 成様(東北医科薬科大額病院精神科病院准教授 宮城心のケアセンターセンター長)

<アンケートより一部感想>

・子どもへの接し方や言葉のかけ方で気をつけなければならないことや最新の情報など、参考資料や文献などには載っていない具体的なものを知ることができ、とても勉強になりました。やはり教員は児童生徒にとって大変身近な存在であり、小さな変化を見逃さず、寄り添っていきたくと改めて感じる事が出来ました。大変貴重な講話をありがとうございました。

・今回の子ども・若者の自死予防については身近な問題でもあり、具体的な対応、相談された時の受けとめ方は、特に日々の対応に活かしていく必要を感じました。“いなくなりたい”“死にたい”という言葉が珍しくなく聞こえる学校の現状は、繋がるチャンスとも思いますので、こちら側の心身の体力を保ちながら努めたいと思いました。そのためには、より所となる今回のような研修の機会に本当にありがたいです。ありがとうございました。



(3)若者こころの支援会議の実施

県内大学関係者、宮城県保健福祉部精神保健推進室、民間若者支援団体(一般社団法人ワカツク)、事業主体団体にて構成。

第1回:2022年9月15日 14名参加(Zoom オンライン)

第2回:2023年1月19日 10名参加(Zoom オンライン)

第3回:2023年3月7日 14名参加(Zoom オンライン)

今年度参加大学:石巻専修大学・尚絅学院大学・仙台大学・仙台市白百合女子大学・東北医科薬科大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城大学・宮城教育大学・宮城学院女子大学

4年目を迎え、体制も安定し実施することができ、大学間での積極的な意見交換を行うことができた。会議の場にてゲートキーパー養成講座やセルフケア講座を導入した大学から実践報告をいただくことで、他大学がその効果を実感でき、その後の導入検討に繋がった例も見られるようになり、学生のメンタルヘルスを横のつながりで支えるという良い流れを作ることができたと感じている。

来年度で最終年度となるため、より大学との繋がりを深め連携を強化し、学生の自死予防に貢献していきたい。

(執筆担当:小関美江)

■ みやぎ高校居場所ネットワーク事業

事業名	みやぎ高校居場所ネットワーク事業
助成委託団体・助成金名	宮城県絆力助成金
助成・委託期間	2022年7月1日から2023年3月31日まで
事業概要	沿岸部を中心とした被災高校生への心のケアやこれまでの取り組みのノウハウ移転。 ①「NOTECafé」事業: 高校に石巻 NOTE スタッフが出向き高校内居場所カフェを開催 ②「『働く・学ぶ』応援窓口」事業: 被災高校生の働く・学ぶに関わる相談窓口の設置、各種講座の展開、高校中退者への学びなおし支援 ③「高校内居場所カフェハンドブック」の作成: 宮城県内で高校内居場所カフェを普及させるために、これまでの取り組みをまとめたハンドブックを作成し関係機関へ無償で提供。

実績及び成果・課題

【実績】

① NOTECafe 実施回数

合計実施回数 37回 (達成率123.3%)

参加人数合計114名 (達成45.6%)

(目標: 3校×10回=30回 参加人数250名)

実施校	実施回数	参加人数
宮城県立石巻北高等学校飯野川校	9	46名
宮城県立東松島高等学校	7	12名
石巻市立桜坂高等学校	11	21名
宮城県石巻西高等学校	8	12名
宮城県貞山高等学校	2	23名

他、高校訪問10校/居場所カフェ設置サポート2校



② 高校生居場所事業

年間受益者数 仙台3名 石巻377名

高校生の相談件数 仙台21名 石巻145名

特別講座回数: 10回

③ 「高校内居場所カフェハンドブック」の作成

ハンドブック有識者会議 開催回数9回

<ご協力いただいた有識者の皆様(五十音順)>

石巻専修大学 教授 高橋寛人 先生

一般社団法人officeドーナツトーク代表 田中俊英 様

仙台大学 教授 氏家靖浩 先生

特定非営利活動法人TEDIC 代表理事 大津賢哉 様

特定非営利活動法人パノラマ 理事長 石井正宏 様

特定非営利活動法人学びのたねネットワーク代表理事 伊勢みゆき様

宮城県教育委員会スクールソーシャルワーカー 川上芳夫 先生



【成果と課題】

今年度は新たに2校NOTECafe実施校として新規開拓することが出来た。石巻 NOTE スタッフが高校の行事や授業に参加することで、学校関係者や生徒との顔の見える関係を作ることが出来 高校内居場所カ

カフェを「特別な場」ではなく、「誰でも行くことができる身近な場所」と位置付けることが出来た。また高校内居場所カフェだけでなく高校生の相談窓口も同時に設置することで長期休みなど学校のない時にも切れ目なく支援できる体制を整えることが出来た。

地域の大人に直接人生観や職業までの道のりを語っていただく特別講座を実施したことで、若者の進路選択の幅を広げ、広い視野で「はたらく」ことのイメージを湧かせる手伝いを行った。

ハンドブック作成にあたっては全国の居場所カフェを行う団体や関係機関と深く連携することが出来、多方面からの意見をカフェ事業へと反映させることが出来た。また、ハンドブックの周知を関係機関へ行うことで、より深くカフェ事業を多くの方へ知っていただくことが出来た。

高校生との信頼関係を築くには月1回のカフェ開催では難しいと感じたため、今後は回数や開催内容を再検討し、より生徒と繋がれるカフェの形を模索する必要があるように感じる。

(執筆担当 伊藤)



■中卒進路未定者・通信制高校転学者の再出発支援事業の強化事業

事業名	中卒進路未定者・通信制高校転学者の再出発支援事業の強化事業
助成委託団体・助成金名	石巻市地域づくり基金助成金
助成・委託期間	2022年6月1日～2023年3月31日
事業概要	学ぶことに躓いた10代後半の若者に対し、再び「学ぶ」「働く」ことに安心してチャレンジできるように支援する。進学・転学・再入学・就職などの進路決定につなげるため、対象の若者と出会う場を構築し、再出発につなげるための機能強化をはかる。

【実績及び成果・課題】

- 学習支援・自習場所の提供 対象者5名、ボランティア1名、実施回数のべ87回
- 多様な経験ができる場の提供
 - 文化体験・芸術体験等のプログラム実施
実施回数38回
内容一例：ヒンメリライトづくり、コースターづくり、書初め、スクラッチアート、千切り絵、みんなでパズル、クリスマスゲーム大会、大掃除祭りなど
 - 外出が難しい中卒進路未決定者に対するアウトリーチによるプログラムの提供
対象者1名、実施回数のべ5回
内容一例：コミュニケーションカード、スクラッチアート、羊毛フェルト、カードゲーム
 - 進路決定支援（個別面談・適職の検討・履歴書作成・面接練習等）
新規相談30件、進路決定者26名

3. 地域交流イベント・家族交流会の開催

- ・7月28日 ダンスイベント「K-POP ダンスを踊ろう」
参加人数:7名 実施場所:第三ステージ
- ・1月8日 「家族セミナー我が子がつまずきから一歩踏み出すために家族ができること」
講師 森本多美子氏 育て上げネット『子供の将来相談窓口「結」』
参加人数 : 12名 実施場所:石巻市かわまち交流センター

<市民への周知>

・高校連携

石巻圏域全 10 校の高校を各 2 回以上訪問、毎月1回以上の活動予定表の郵送。

石巻 NOTE 利用につながった生徒の在籍高校: 7 校

石巻好文館高校、桜坂高校、宮城県水産高校、石巻西高校、石巻北高、東松島高校、石巻北高校飯野川校、
宮城県美田園高校、N 高等学校、飛鳥未来高校

・市民への周知

NPO センターと連携した告知、ローカル誌「んだっちゃ」掲載、yahoo 広告への掲載

◆成果と今後の課題

学習支援を通じ大学への進路決定が決まった若者や復学し継続できた若者、高校退学者が希望の通信制高校に転学決定するなど、学ぶことに躓いた若者の学びなおしに大きく寄与することができたといえる。また多様な経験ができるプログラムの提供は、社会につながる第1歩になるだけでなく、不登校経験等で不足した経験を補う効果もあり、学習以外に本人の動機付けや自己効力感を高めることにつながっている。

今年度は、ひきこもりがちな中卒進路未決定者に対し、家庭訪問によるプログラム提供を行ったが、本人の主体性を育み、社会への興味関心を高める効果が生まれている。地域交流イベントでは、若者向けのイベントと家族向けの交流会を実施した。若者向けイベントでは若者が関心のある、K-POP ダンスイベントを開催。市内の通信・通学の高校生が参加し、非日常的な経験を提供することができた。家族向けイベントでは、家族支援を実践している専門家を招聘し、子どもがおかれている社会状況や新たな進路のあり方、子どもとの接し方、また家族自身の支援の必要性等具体的な事例を交えて講話をいただいた。特に後半の質疑応答の時間では、寄せられた質問・回答を共有することにより、家族が抱える困難を参加者同士で共感しあう場となり、家族の孤立・孤独感を解消することにつながった。家族セミナーから相談・石巻 NOTE の利用につながったケースもあり、本人・家族が必要な支援につながる効果があった。

課題としては、学習ボランティアの確保があげられる。対象者の活動時間や希望する科目に対して、該当するボランティアを確保することが難しく、学習ボランティアによる学習支援の提供がわずかなものとなってしまった。平日日中に行う学習支援をどのように提供していくかは課題である。引き続き、人材の確保に努め、学習支援体制の充実につなげていきたい。

(執筆担当: 長岡千裕)



■東北工業大学 キャリア講座委託

事業名	東北工業大学キャリアセミナー I
助成委託団体・助成金名	東北工業大学 委託事業
助成・委託期間	2022年4月～2023年3月
事業概要	長町キャンパス ライフデザイン学部生活デザイン学科2年生を対象に、キャリアセミナーを対面にて実施。

【実績及び成果】

講義の全体趣旨は本格的な就活の前に土台として必要な社会基礎力の習得をベースとし、キャリアデザインの考え方や多様な働き方、コミュニケーションやプレゼンテーションスキルの習得を目指す内容で実施。毎年好評のLEGO講座は感染対策をしたうえで実施。長引くコロナ禍にて制限の多い学生生活を送ってきた状況を踏まえ、セルフケア等の講座を昨年同様取り入れ学生のメンタルヘルスを支援しながら、将来のキャリアについて考えることができる内容とした。

回	日付	担当講師	タイトル	内容
1	10月8日(金)	Switch 小関	学生のキャリア・デザイン	学生と社会人の違い・社会人基礎力とは自身のキャリアについて考える
2	10月15日(金)	Switch 今野	日本のNPOと企業の社会貢献活動について	世の中の多様な働き方を知る
3	10月22日(金)	Switch 小野	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎理解
4	11月5日(金)	Switch 小野	アングーマネジメント	怒りの対処法
5	11月12日(金)	Switch 小野	アサーション	自分もOK、相手もOKなコミュニケーション
6	12月3日(金)	Switch 小野	メンタルヘルス	ストレスとセルフケア
7	12月17日(金)	Switch 高橋	課題解決コミュニケーション①	LEGO アイディアワーク(2組は「文章の書き方」動画課題)
8	12月24日(金)	Switch 小関	自分プレゼン術	プレゼンテーションのポイント・相手に伝わる伝え方
9	1月7日(金)	Switch 高橋	課題解決コミュニケーション①	LEGO アイディアワーク(1組は「文章の書き方」動画課題)
10	1月14日(金)	Switch 小関	就職活動に向けて	今後の就職活動の流れや必要な準備・EQ

(執筆担当:小関美江)

■宮城県障害者能力開発校 セルフケアマネジメント科 委託事業

事業名	2022年委託訓練(セルフケアマネジメント科)
助成委託団体・助成金名	宮城障害者職業能力開発校
助成・委託期間	2022年8月18日～2022年9月22日
事業概要	委託内容:長期就労の為に一般的なスキルの習得と共に、アセスメントツールをもとにし自己理解を促進し、自身でのメンタルケア及び安定維持のためのセルフマネジメントを習得することを目的とした訓練を実施。 対象:精神障害・発達障害

【実績及び成果・課題】

実績: 2名の申込があり、2名共に参加。2名とも必要過程を修了。

終了後、1名は地域の支援機関を利用して就職活動開始、1名は医療機関が中心となり就労移行支援の利用検討を開始。

課題: 訓練生の募集においての広報についての難しさがあり、4名定員のところ2名の応募となった。今後行っていく場合には戦略を立てて広く広報を行っていく必要がある。

(執筆担当: 田口雄太)

■仙台市健康福祉局 仙台市災害こころネットモデル 委託事業

事業名	2022年仙台市災害こころネットモデル事業
助成委託団体・助成金名	仙台市健康福祉局
助成・委託期間	2023年1月1日～2023年3月31日
事業概要	災害時の精神障害者支援をより円滑に行う為に、精神障害者の自助力の向上及び地域における事業所・団体間のネットワーク強化に資する活動の拡充を図る。

実績及び成果・課題

実績: 仙台管区气象台より講師を招き防災講座の実施と防災ナビを活用した避難訓練を実施

職員7名と利用者15名の参加。専門家からの講義により防災知識を深められたと同時に、防災ナビを配布し、実際に活用した避難訓練を行った。



(執筆担当 田口雄太)

■ダンス交流会 『NHK 歳末たすけあい』事業

事業名	ダンス交流会
助成委託団体・助成金名	宮城県共同募金会 令和4年度『NHK 歳末たすけあい』
助成・委託期間	令和5年2月20日(月)
事業概要	利用者の運動に対する意識を高め、健康増進を促すことや、体を動かすきっかけづくりのため。また地域の方々にも参加していただき、交流を促すとともに、精神疾患、発達障害への理解、啓発を促す。

◆実績及び成果・課題

・イベント名:ダンス交流会

・参加人数:ダンス講師1名、参加人数11名(地域の方の参加3名)

開催日時:2023年2月20日(月) 13:30-15:00

場所:ダンロップスポーツウェルネスゆふと

◆成果と今後の課題

今回、利用者や地域の方々の体を動かすきっかけ、そして交流の機会をつくることが出来た。参加者の声では「今回のようなダンスイベント、体を動かすイベントにまた参加したい」や「楽しかった」等の反応があった。参加者の反応を見ると運動に対する意識を高め、健康増進を保つきっかけになったのではと思う一方、今回ダンス交流会を開催して、気軽に参加できるダンス講座や運動系のプログラム等を必要としているという生の声が多く、継続的な開催とスタジオを借りる資金面が課題となった。

(執筆担当 高橋貴江)



13)メディア掲載

※掲載した画像につきましては、使用許可を頂いております。

■2022年7月20日(水) 河北新報 朝刊に掲載

みやぎ若者応援プラットフォーム事業の中のひとつ「eスポーツ伴走支援事業」についての記事が掲載されました。

オンラインゲームで伴走

仙台の認定NPO コロナで失職の若者支援

新型コロナウイルス禍で勤め先やアルバイト先から解雇されるなどして引きこもりがちな若者たちを支援するため、仙台市の認定NPO法人Switchスイッチは、オンラインゲームで当事者と信頼関係を築きながら再就職を促す取り組みを始める。法人はインターネットに居場所求め、実社会に不安を抱く人へは多い。次の一歩を踏み出すサポートをしたいと意気込む。

「みやぎ若者応援プラットフォーム」と題し、取り組みは16、30歳の高校生や学生、社会人が対象。法人はO11年から若者向けに相談支援を対面や電話で展開してきたが、近年はネット上で交流したり本音を話し合ったりする人が多いため、新しい手法を取り入れることにした。

支援の仕組みは国の通り。一般社団法人仙台eスポーツ協会の助成を得て構築した。既存のアプリを利用し、スタッフと若者が世界的に人気のある対戦型ゲームを通じて交流。その後、参加者同士が勝敗を競うeスポーツのイベントを市内で開き、対面の親睦につなげていく。

「チューター」と呼ぶスタッフが、オンラインゲームに詳しい大学生や専門学校生らを有償で採用。指導者も支援者というよりも仲間。伴走者として同じ時間を共有し、関係性を築いていく。

その後、対人コミュニケーションの基礎や十問連の技能などを幅広く学べる講座を展開。農産物の販路サイトの立ち上げや農作業従事する6泊7日の農村体験、若者のサポートに前向きな協力企業での職場体験といった幅広いメニューを用意し、働く意欲を徐々に取り戻してもらっている。

事業は金融機関、長期間取引がない預金窓口の公益的活動に生かす「休眠預金等活用方法」に基づき、関係団体から約400万円の助成を受けて実施する。22年度は非行を録した若者の再犯防止や性的少数者の支援などを担当するNPO団体が採択され、スイッチは東北で唯一選ばれた。

今野純太郎代表理事は「オンラインゲームは若者の求心力が強く、支援する側がウェブ上に出現することで新たな関係を築ける。親や友人が『何か面白いことをやってみよう』と若者に声をかけ、気付けば再就職の足掛かりをつかんでいるようなモデルにした」と話す。

連絡先はスイッチO22 (700) room。

信頼関係築き 再就職促す

■2023年3月3日 石巻かほく「音楽に合わせステップ軽快 スイッチ・イシノマキ 東松島でダンス交流会」掲載

音楽に合わせ ステップ軽快

障害者の就労支援などを行う認定NPO法人Switchスイッチ・イシノマキが2月20日、東松島市健康増進センターゆきで、体を動かすきっかけづくりの一環としてダンス交流会を初めて開いた。

参加者は高橋さんが考案した振り付けに挑戦。ステップを踏んだり体を動かしたりしたほか、カクテルに分類されて互いに披露し合いダンスに親しんだ。

交流会は新型コロナウイルス感染症で減少した外出や運動機会の創出と心身のリフレッシュ、地域交流などを目的に実施した。

交流会には一般参加者のほかスイッチ・イシノマキ同法人が運営する若者向けの就労支援「eスポーツ」の利用者が参加。ダンサーとして活動経験のある支援員の高橋江さんが講師を務めた。

ダンスに挑戦する参加者

3月3日(金) 石巻かほく

■2023年3月16日 河北ウイークリーせんだいに掲載

認定NPO法人Switchユースサポートカレッジ仙台NOTE
カードゲーム「ココロリーツナガール」

遊んで学ぶストレス対処法

対戦形式で遊びながら、ストレス対処法やセルフケアについて学べる、新感覚のカードゲームが誕生。プレイヤーは相手の提示したストレス事象に対して効果的な対処法を示すことでゲームが進む。ストレスを提示した側が「効果あり」と感じる対処法を出せたら得点となる。ゲームを開発した団体では、普及活動に協力してくれる個人や団体を募っており、近くオンライン説明会を実施する。問い合わせはEメールまたは電話で。



info@npo-switch.org

問/認定NPO法人Switch
ユースサポートカレッジ仙台NOTE



Tel.022-253-7701

■2023年4月5日 日本財団ジャーナル取材記事

「見えづらい思春期のこころの不調。カードゲームで自覚を促し、子ども・若者の生きる力を支える」掲載

URL:<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/87083/suicide>

※ 記事より一部抜粋



見えづらい思春期のこころの不調。カードゲームで自覚を促し、子ども・若者の生きる力を支える



認定NPO法人Switchが開発した子ども・若者のメンタルヘルスリテラシーを高めるカードゲーム「ココロリーツナガール」

写真提供:日本財団ジャーナル

■2022年10月18日 読売新聞朝刊 安心の設計 欄「ゲーム糸口につながり回復」掲載

■2023年1月19日 石巻日々新聞 いしのまきNPO日和 vol.81 掲載

■2023年1月16日 エフエムたいはく「ゆるるとNPO! オン・タイム・トーク」出演

■2023年2月22日 エフエムたいはく「キミトナラジオ」出演